

学年の壁をなくし、みんながつながる学校へ



児童生徒会長 壁谷 珀杜 はくと

児童生徒会長として、西浦学園の基礎をつくっていかねばならないという使命感を感じる一方で、どんな学校になっていくのかとてもワクワクしています。現在は5～9年生が同じ校舎で過ごしていて、学年の壁をなくそうと、児童生徒会では、縦割りグループでゲームを楽しむ「つながりタイム」を企画し、他学年同士の交流を進めています。

新しい校舎は開放感があり、使用するのが楽しみです。公民館が同じ建物にあるので、地域とのつながりも大切にしていきたいです。西浦学園はまだスタートしたばかりですが、誰もが自然に関わり合える学校をつくり、学校を中心に西浦を盛り上げていきたいと思っています。

西浦らしさがつまった校章にも注目！

海と桜がモチーフ。波で翼を表し、夢や希望を抱いて輝かしい未来に羽ばたいてほしいという想いが込められています。



最初の赴任先が西浦中だったこともあり、西浦には特別な思い入れがあります。その西浦で、義務教育学校という新しい学校の開校に携われることをとてもうれしく思います。

義務教育学校の大きな魅力は、9年間を見通して教育が進められるとともに、子どもたちの成長を支えられることです。西浦学園では、「総合的な学習」「英語教育」「情報教育」を特色ある教育活動として位置付けています。特に総合的な学習では、西浦の魅力や課題について考え、地域をより良くするために自分たちに何ができるのかを学びながら、地域とともに活動しています。



校長 宇野 晶由 あきよし

地域とともにある、新しい学びのかたち

学校運営協議会にはまちづくり部会を設け、漁業や観光など地域で活躍する皆さんにも参加してもらっています。学校だけで子どもを育てるのではなく、家庭や地域と育てたい子どもの姿を共有しながら、「地域とともにある学校づくり」を進めていきたいです。

開校から数カ月が経ち、子どもたちはレクリエーションなどを通じて交流を深めています。廊下に飾られた作品を見て感想を話し合う姿や、異学年でふれあいながら登校する様子を見ると、義務教育学校ならではの良さを感じます。9月からは全学年が同じ校舎で過ごします。いろいろな人との交流が深められるという施設の特徴を生かしながら、子ども同士だけでなく、地域や多世代のつながりもさらに広げていきたいです。

西浦学園のキャッチフレーズは「丸くあれ、そして星となれ」です。思いやりを持って互いを認め合う「丸い心」を土台に、1人ひとりが自分らしく輝ける「星」となってほしい。そのために、学校・家庭・地域が力を合わせ、地域全体で子どもたちを育てていきたいと思っています。